

生成 AI で徹底分析！相模原市の広報「広報さがみはら」の取組と今後の展望

日付: 令和6年7月5日(金) 実施者: 阿部善博 作成: Gemini

相模原市は、市民への情報伝達を強化し、より多くの市民に広報誌「広報さがみはら」を読んでもらうために、様々な意欲的な取り組みを行っています。今回は、ChatGPT、Gemini、Claude という3つの生成 AI ツールを用いて、これらの取り組みを評価し、今後の改善点を探ってみました。

相模原市の広報戦略: 多角的なアプローチ

相模原市では、広報さがみはらを市民に届け、読んでもらうために、以下の多岐にわたる施策を実施しています。

1. **多様な媒体での情報提供:** 紙媒体だけでなく、LINE、Yahoo!暮らし、ホームページ、専用アプリ、カタログポケットなど、多様な媒体で情報を発信。
2. **デジタル版の充実:** PDF データ、専用アプリ、カタログポケットでの提供に加え、多言語対応や音声読み上げ機能も実装。
3. **配布方法の多様化:** 新聞折り込み、ポスティング、公共施設、駅、コンビニ、大学など、様々な場所に設置。
4. **読者への配慮:** 読者アンケートの実施や、広報紙持参で特典が得られる店舗の紹介など。
5. **視覚障害者への配慮:** 録音版と点字版の発行。
6. **記事内容の充実:** ターゲット層に合わせた特集記事や定期的なリニューアル。
7. **連携イベントの実施:** 市のイベントと連動した広報活動。
8. **公共施設等での配布と PR:** 広報紙の表紙を電照布看板で掲示。

生成 AI による評価: 強みと改善点

3つの生成 AI ツールは、相模原市の取り組みを高く評価しました。特に、デジタル化への対応とアクセシビリティの配慮、多様な媒体での情報提供が優れていると指摘しています。

一方、改善点として、以下の点が挙げられました。

- 若年層へのアプローチ強化
- SNS のさらなる活用
- 効果測定の実施
- 双方向コミュニケーションの促進

今後の展望: さらなる進化に向けて

これらの評価を踏まえ、相模原市はさらなる改善策を検討しています。

- **ターゲット層別アプローチの強化:** 子育て世代、若年層、高齢者など、それぞれの層に合わせた情報提供を強化。
- **双方向コミュニケーションの促進:** 読者参加型企画、意見交換会、SNS での積極的な情報発信と交流。
- **新たな媒体の活用:** 動画コンテンツ、ポッドキャスト、AR 技術など、新たな媒体を活用した情報発信。

まとめ

相模原市は、広報さがみはらをより多くの市民に届け、読んでもらうために、多岐にわたる取り組みを行っています。AI の評価と提案を参考に、さらなる進化を目指し、市民にとってより身近で役立つ情報源となることを目指します。

以上